



注目ポイント

- ✓先週、ドル円は地政学リスクで一時円が買われる場面があったものの、世界的な株高によるリスクオン回復や米雇用環境の底堅さ、さらには衆院解散を巡る観測を背景に円安が進み、週末に1ドル=158円台に突入。国内金利は円安を受けた日銀による追加利上げ観測から上昇し、10年債利回りは一時2.13%と約27年ぶりの高水準を記録。一方で、日経平均は円安と世界的株高を追い風に最高値を更新後、日中問題を背景に調整したが、週末は主力株高で持ち直した。
- ✓今週、ドル円は衆院解散観測から積極財政期待が高まることで、円安基調が想定される。ただし160円に接近すると介入警戒感が重しとなろう。国内金利は日中関係悪化による利上げ観測後退が抑制要因となろうが、財政拡張懸念で上昇圧力がかかる見込み。一方、日経平均は円安や世界的な株式市場の堅調さを追い風に最高値更新を試す展開が見込まれる。

(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2026年1月5日

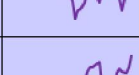
~

2026年1月12日

市場・指標			1月5日 ~ 1月12日		1月12日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	52,524	50,996	51,940	+1,600	+3.2%	
	 米国	NYダウ (ドル)	49,633	48,450	49,590	+1,208	+2.5%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	25,421	24,640	25,405	+866	+3.5%	

市場・指標			1月5日 ~ 1月12日		1月12日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	2.130	2.070	2.090	+0.030	
	 米国	10年 (%)	4.20	4.12	4.19	+0.00	
	 ドイツ	10年 (%)	2.91	2.79	2.84	-0.06	

市場・指標			1月5日 ~ 1月12日		1月12日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		158.20	156.12	158.17	+1.33	
	 ユーロ (円)		184.67	182.64	184.53	+0.69	
	 豪ドル (円)		106.28	104.57	106.20	+1.22	

市場・指標			1月5日 ~ 1月12日		1月12日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リート (ポイント)	2,049	2,004	2,039	+25	+1.2%	
	 米国	NY原油 (ドル)	59.81	55.76	59.53	+2.2	+3.9%	
		NY金 (ドル)	4,641	4,355	4,608	+278	+6.4%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休日の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2026年1月13日 ~ 2026年1月16日

株式

上値を試す展開か

日経平均
【予想レンジ】 51,500 円 ~ 54,500 円

- 先週の日経平均は荒い値動きのなか大幅上昇。世界的な株高や円安が追い風となり、5日大発会で急反発した日経平均は6日も続伸し、過去最高値を更新。しかし7日以降は、中国の対日レアアース輸出規制を嫌気して、自動車株等が売られ反落する展開に。ただし週末9日には業績見通しの上方修正を発表したファストリテイリング株の大幅高や半導体関連株の買戻しで反発し、5万2千円目前まで回復した。
- 今週の日経平均は、上値を試す展開か。世界的な株高に加え、一部報道にある解散総選挙観測が日本株の支援材料となろう。円安も追い風に最高値更新が期待される。日中関係悪化で上値が抑えられる可能性もあるが、その場合もグロース銘柄や中小型株への循環物色が広がることで、底堅い展開が期待できる。



金利 (国債)

解散総選挙観測が金利上昇圧力に

10年国債利回り
【予想レンジ】 2.050 % ~ 2.170 %

- 先週の国内金利は上昇。6日の10年国債入札は無難に消化したが、円安進行で日銀が早々にも追加利上げを迫られるとの警戒感が債券売りを誘い、10年国債利回りは一時2.13%と約27年ぶりの高水準を記録。一方、8日には日中関係悪化による景気減速懸念を背景に、株式市場が大幅安になると、債券は買い戻され2.075%まで低下する場面も。ただし債券相場は、週を通して上値の重さを感じられた。
- 今週の国内金利は上昇か。一部報道による解散総選挙観測は、財政拡張懸念が意識され金利上昇圧力になろう。もちろん、日中関係悪化がフォーカスされ、日本経済が下振れることで日銀の利上げ観測が後退するとの見方が、金利上昇を抑制する可能性も。



為替 (米ドル)

ドルが上値を試す展開か

米ドル/円
【予想レンジ】 157.50 円 ~ 159.50 円

- 先週のドル円は、円安ドル高が進展。週初は米国のベネズエラ攻撃に伴う地政学リスクの高まりから、リスクオフの円買いが見られたが、その後は世界的な株高を背景にリスクオンが回復。週末には、米雇用統計の結果が、労働市場は大きく悪化していないと評価されたことや、「高市総理が衆議院解散総選挙を検討」との一部報道も円安ドル高を加速させ、1ドル158円台まで円が下落した。
- 今週のドル円は、円安ドル高が進展か。米物価関連統計(13日:CPI、14日:PPI)次第で、どちらの方向にも動く可能性があるが、衆院解散を巡る観測は、高市政権の積極財政による財政悪化が改めて懸念されて円安の材料に。ただし、1ドル160円に近づくことで、円買い介入のリスクも意識されやすくドルの上値は軽くないだろう。



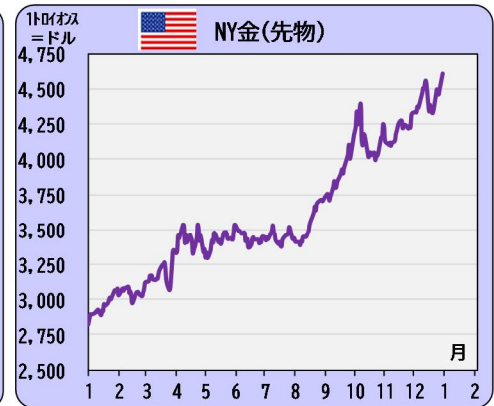
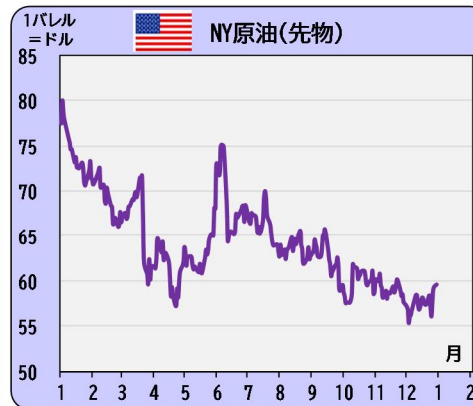
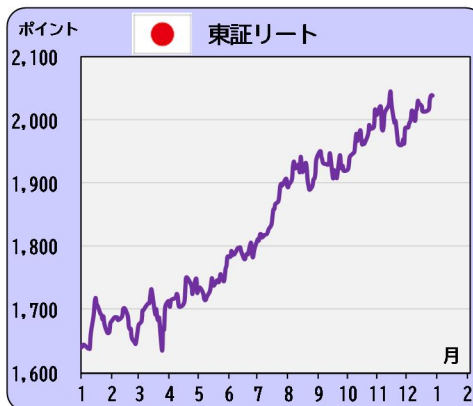
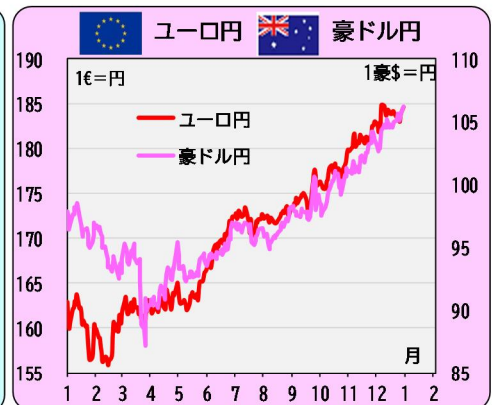
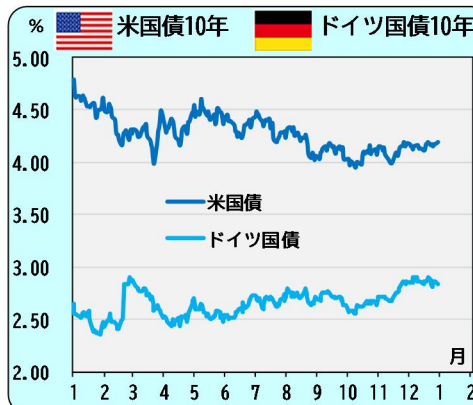
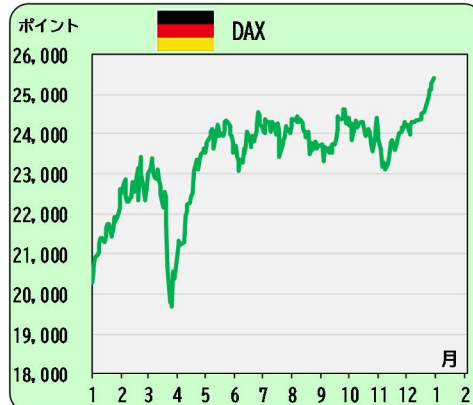
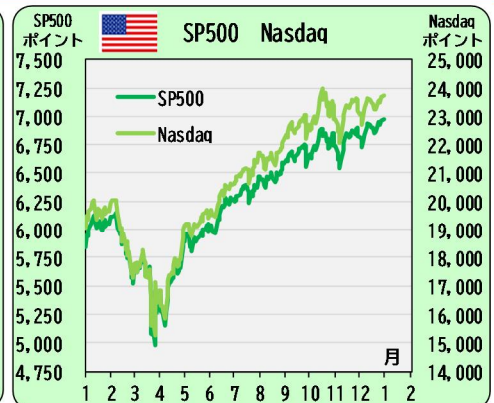
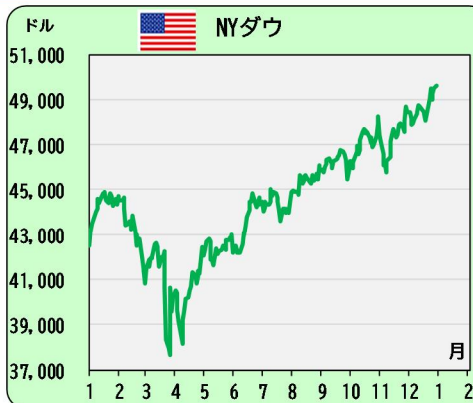
○今週の注目標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
1/12(月)	祝日(成人の日)	米国: 国債入札(3年・10年)
1/13(火)	国際収支統計(11月) 景気ウォッチャー調査(12月)	米国: 国債入札(30年) 米国: CPI(12月)
1/14(水)	国債入札(5年)	米国: PPI(11月) 米国: 小売売上高(12月) 米国: 経常収支(7~9月)
1/15(木)	国内企業物価指数(12月)	米国: 中古住宅販売件数(12月) 米国: フィラデルフィア連銀景気指数(1月)
1/16(金)		米国: 鉱工業生産指数・設備稼働率(12月)



③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。